日本古生物学会　２０１８年年会

2018年6月22日（金）～6月24日（日）

東北大学　青葉山北キャンパス

＊＊＊＊＊＊＊＊＊1．プログラム　概要　＊＊＊＊＊＊＊＊＊

6 月 22 日（金）会場：東北大学　青葉山北キャンパス

【13:00-16:50】　シンポジウム「大量絶滅の原因とプロセス」・・・・・・・・・・・・ii
【17:00-18:10】　総会　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・iii
【18:30-20:30】　懇親会（東北大学　青葉山東キャンパス　あおば食堂 DOCK）・・・iii

6 月 23 日（土）会場：東北大学　青葉山北キャンパス　A-C 会場，ポスター会場

【 9:00-10:00】　学術賞受賞記念特別講演 1（A 会場）　・・・・・・・・・・・・・・iii
【10:15-11:15】　学術賞受賞記念特別講演 2（A 会場）　・・・・・・・・・・・・・・iii
【11:30-12:30】　一般講演　口頭発表 1（A-C 会場）・・・・・・・・・・・・・・・・・iv
【13:30-14:30】　一般講演　ポスター発表コアタイム（ポスター会場）・・・・・・・iv-vi
【14:45-16:00】　一般講演　口頭発表 2（A-C 会場）・・・・・・・・・・・・・・vi-vii
【16:15-17:15】　一般講演　口頭発表 3（A-C 会場）・・・・・・・・・・・・・vii-viii
【17:30-17:45】　ポスター賞表彰式（ポスター会場 1 付近）　・・・・・・・・・・viii
【17:45-19:45】　夜間小集会（地球科学研究棟 5 階 503,513 号室）・・・・・・・・・
viii-ix

6 月 24 日（日）会場：東北大学　青葉山北キャンパス　A-C 会場

【 9:15-10:30】　一般講演　口頭発表 4（A-C 会場）　・・・・・・・・・・・・・・ix-x
【10:45-12:00】　一般講演　口頭発表 5（A-C 会場）　・・・・・・・・・・・・・・x-xi
【13:30-15:00】　普及講演会（東北大学 理学研究科大講義室）　・・・・・・・・・・xi
【 9:45-14:30】　化石友の会イベント　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・xi-xii

発表方法と機器についての注意事項など（必ずお読みください）・・・・・・・・・xiii
その他会場案内など　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・xiv-xvi

２０１８年年会参加費：一般会員 6,000 円　学生会員 2,000 円　友の会会員 1,000 円
一般非会員 7,000 円　学生非会員 3,000 円　高校生以下無料（予稿集は有料，1 冊 500 円）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊ 2.プログラム 詳 細 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊

6月22日（金）

【13:00-16:50】東北大学　青葉山北キャンパス　Ａ会場

シンポジウム「大量絶滅の原因とプロセス」Causes and processes of mass extinctions

コンビナー：海保邦夫（東北大）・井龍康文（東北大）

生物の大量絶滅は過去５億４千万年間の顕生代に５回起きている．それらは，オルドビス紀末，後期デボン紀，ペルム紀末，三畳紀末，白亜紀-古第三紀境界である．大量絶滅は、その後の生態系の構成要素を高次分類群レベルで大きく変えることにつながり，生物進化を理解するうえでも必要不可欠な研究対象であり続けている．大量絶滅の原因と大量絶滅に至るプロセスは，地球物理学，地球化学，地質学，古生物学の研究者が携わってきたことで，それらの真実が見えて来た．このシンポジウムでは，原因に関する新しい証拠，大規模火山活動と小天体衝突による気候環境変動メカニズムに焦点をあて，５回の大量絶滅の原因とプロセスについての最新知見を参加者と共有し，あらたな展開を目指して議論したい.

13:00–13:10 Opening speech　Yasufumi Iryu (Tohoku University, Japan)

13:10–13:40 **Reconsidering The Late Ordovician Mass Extinction: the nature and timing of environmental changes and their relationship to extinction events**
Seth Finnegan (UC Berkeley, USA)

13:40–14:00 **Biotic responses to volatile volcanism and environmental stresses over Guadalupian-Lopingian (Permian) transition**
Yuangeng Huang (China University of Geosciences, Wuhan, China)

14:00–14:30 **The end-Permian mass extinction event in the pelagic Panthalassa**
Satoshi Takahashi (University of Tokyo, Japan)

【14:30 – 14:50】－Coffee Break－

14:50–15:20 **CO_2 amplification of orbitally paced variability in the hydrological cycle across the end-Triassic extinction**　Jessica Whiteside (University of Southampton, UK)

15:20–15:50 **Climate and environmental changes at the Cretaceous-Paleogene: triggers and consequences of rapid mass extinction**　Johan Vellekoop (KU Leuven, Belgium)

15:50–16:30 **Global cooling-drought by soot and sulfuric acid aerosols caused the mass extinctions**　Kunio Kaiho (Tohoku University, Japan)

16:30–16:50 Discussion

【17:00-18:10】　総会（東北大学　青葉山北キャンパス　Ａ会場）

【18:30-20:30】　懇親会（東北大学 青葉山東キャンパス「あおば食堂DOCK」）

懇親会は予約制です．参加を希望される方は，必ず事前にメールかハガキで，**６月１２日（火）[必着]**までに，お申し込み下さい．参加をキャンセルされる場合も６月１２日（火）までにご連絡をお願いします．

会　場：青葉山東キャンパス「あおば食堂 DOCK」（工学研究科青葉記念会館手前）

移　動：総会後，徒歩でご案内します（15 分程度）．直接出向かれる場合は，本会プログラムの会場案内をご覧下さい．
お帰りは，地下鉄東西線・青葉山駅の南１出入口が最寄りとなります．

会　費：一般会員・一般非会員・友の会会員…6,000 円，学生会員・学生非会員…4,000 円

申込先：高柳栄子（東北大学大学院理学研究科地学専攻）

メール：psj.tohoku.2018.konshinkai●gmail.com （「●」を「@」に置き換えてください）

※件名は**「日本古生物学会懇親会申込」**とし，**会員の種別（一般会員・友の会会員・一般非会員・学生会員・学生非会員）を明記**してください．

ハガキ：〒980-8578　宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉６－３
東北大学大学院理学研究科地学専攻　　高柳栄子　宛

6月23日（土）東北大学　青葉山北キャンパス

【9:00-10:00】学術賞受賞記念特別講演１（A 会場）

土屋正史「有孔虫類の分子生物学的研究」

【10:00-10:15】休 憩

【10:15-11:15】学術賞受賞記念特別講演２（A 会場）

山田敏弘「化石と分子生物学を融合した進化古植物学的研究」

【11:15-11:30】休 憩

【11:30-12:30】一般講演 口頭発表1（A-C会場）

A 会場	B 会場	C 会場
微古生物学の部 座長:松崎賢史	古環境の部 (1) 座長:高橋聡	古生態学の部 座長:椎野勇太
A01 m 土屋正史･石渡祐一･吉田尊雄･藤倉克則　生態的要因による岩礁地性底生有孔虫の遺伝的集団の遷移と形成	B01 m 足立奈津子・杉本雄祐・江﨑洋一・刘建波・渡部真人・Gundsambuu ALTANSHAGAI・Batkhuyag ENKHBAATAR・Dorj DORJNAMJAA　モンゴル西部ゴビ・アルタイ地域に分布する最下部カンブリア系石灰質微生物類礁の初期変遷と地球生物環境	C01 m 山北聡　コノドントは何をどのように食べていたのか？　仮説１：gondolellids は筒状・円錐状放散虫を食べていた
A02 m 長谷川四郎　東北地方太平洋側斜面域の深海性有孔虫群集	B02 m 江﨑洋一・刘建波・足立奈津子　北中国山東省の張夏層（カンブリア系第三統）から産するサンゴ様生物の生息環境と系統的な位置	C02 m 山北聡　コノドントは何をどのように食べていたのか？ 仮説２：coniform P_1 element を持つものはバンパイア
A03 m 板木拓也・平陽介・鍬守直樹・斎藤仁志・星野辰彦 人工知能を用いた放散虫群集の自動データ取得へ向けた試み	B03 w Md. Aftabuzzaman･Kunio Kaiho･Li Tian･Ryosuke Saito Timing of collapse and recovery of land vegetation and marine extinction at the end of the Permian	C03 m 山崎和仁　種間相互作用を伴う古生態系の非平衡安定性解析
A04 m 齋藤めぐみ・豊田和弘 琵琶湖における珪藻の大型化に湖水深の変化は影響したか	B04 w Raman Biswas・Kunio Kaiho・Ryosuke Saito・Li Tian Terrestrial collapse and cyanobacteria blooming spanning the end-Permian mass extinction	C04 w 今岡宏太･山崎和仁　移動個体群の生物多様性変化

【12:30-13:30】休 憩

【13:30-14:30】一般講演 ポスター発表
（奇数番号コアタイム 13:30-14:00　偶数番号コアタイム 14:00-14:30）

P01 辻本彰・野村律夫　東シナ海の表層コアから見積もられた堆積速度と底生有孔虫群集
P02 佐々木聡史・入月俊明・卜部厚志・瀬戸浩二・林広樹・酒井哲弥　長崎県壱岐島の微化石と堆積物分析に基づく完新世の環境変化
P03 松井浩紀・R. Sutherland・G.R. Dickens・P. Blum・IODP Exp. 371 Scientists　IODP Exp. 371 の成果速報：タスマン海域の微化石
P04 伊藤剛・松岡篤・馮慶来　ペルム紀放散虫 Albaillellaria にみられる二形性の形態的特徴
P05 中川孝典・脇田浩二　秋吉帯ペルム系錦層群中のマンガン炭酸塩岩から産した放散虫化石の微細構造
P06 小安浩理・廣瀬亘　北海道中軸南部様似地域に分布するチャートからの放散虫化石の産出とその年代

P07 児矢野愛海・金子優樹・佐藤遼祐・篠崎愛恵・岸本直子・相田吉昭　X 線 micro-CT による *Glomeropyle* 属放散虫の形態と内部構造- *Glomeropyle bispinosa* と *Glomeropyle* sp. の比較研究

P08 鈴木桜子・相田吉昭・岸本直子　X 線 micro-CT による *Glomeropyle* 属放散虫の内部構造- *Glomeropyle grantmackiei* と *G. mahinepuaensis* の比較研究

P09 植竹勇介・山本康晶・朝比奈俊輔・相田吉昭　内部骨針を持つ放散虫 *G. grantmackiei* の Ar+イオンビーム加工を用いた走査電子顕微鏡(SEM)による微細立体構造の解析

P10 上栗伸一・Ted Moore　放散虫化石群集に基づく東赤道太平洋における前期/中期中新世境界付近の海洋環境変遷

P11 奥平早香・浅海竜司・高柳栄子・阿部理・井龍康文　石垣島で採取されたサンゴ化石による中期完新世の古環境復元

P12 同前万由子・徳田悠希・江崎洋一・鈴木淳・池原研・片山肇・板木拓也　日本海でのイシサンゴの分布制限要因は水温である－山陰沖イシサンゴ相の成立過程の解明－

P13 増井充・江﨑洋一・長井孝一・秋山哲男・足立奈津子　秋吉石灰岩層群で見られる前期／後期石炭紀境界直後の生物礁の構築様式と微生物類の作用

P14 秋山哲男･佐藤裕一郎･麻生昭雄　大分県豊後大野市三重町高屋の石灰岩の生層序とその構造帯帰属の再検討

P15 田中源吾　下部デボン系福地層の深海性介形虫群

P16 藤原勇樹･入月俊明･瀬戸浩二･香月興太･山田桂･Jin-Young Lee　長崎県対馬舟志湾における過去約 3,000 年間の古環境変化と貝形虫群集

P17 新垣裕康・鈴木雄太郎　遊泳性三葉虫 *Pricyclopyge gallica* (Tjelnvik, 1956)：複眼の形態解析

P18 永広昌之・佐々木理・鹿納晴尚　南部北上帯下部三畳系（上部オレネッキアン階）大沢層産の新種嚢頭類

P19 加藤久佳・池澤広美　茨城県涸沼の完新統より得られたトゲノコギリガザミ化石

P20 臼井彩佳・鈴木雄太郎　ヤマトタマヤスデ *Hyleoglomeris japonica* の球体化姿勢:“うごき”が関わる形づくり

P21 藤岡大・髙柳栄子・山本鋼志・井龍康文　陸水性続成作用が珪長質砕屑岩より産する腕足動物化石に与える影響の定量的評価

P22 酒井佑輔・後藤道治・中田健太郎・佐野晋一　福井県大野市九頭竜地域の手取層群産アンモノイドと海成上部ジュラ系の分布の再検討

P23 岡村省吾・松原尚志　北海道根室地域の上部白亜系根室層群ノッカマップ層の貝類化石年代

P24 間嶋隆一・越智眞弓・三浦美佐・人見真紀子・斎藤猛・並木勇樹・大塚悠佑・清水秀倫・野崎篤・宇都宮正志・楠稚枝・佐藤圭・西田梢・河潟俊吾・和仁良二・中村栄子　千葉県君津市川谷に露出する中部更新統柿ノ木台層から産出する化学合成化石群集と共産する巣穴と自生炭酸塩

P25 吉村太郎・武末翔吾・中山正光・佐々木猛智　ナノインデンテーションおよび圧縮強度試験を用いた二枚貝の殻層構造における力学的優位性に関する検討

P26 Muhammad Aqqid Saparin・Mark Williams・Jan Zalasiewicz・Toshifumi Komatsu・Adrian Rushton・Doan Dinh Hung　Silurian Graptolites of the Co To Islands, Northeast Vietnam

P27 宮田真也・樽創・籔本美孝　神奈川県川崎市に分布する下部更新統飯室層から産出したタイ科魚類化石

P28 中谷大輔　モロッコ産 *Zarafasaura oceanis* (長頚竜類)の頭骨とその意義

P29 三宅優佳・堤之恭・御前明洋・ルグラン ジュリアン・對比地孝亘・小松俊文　鹿児島県甑島列島に分布する上部白亜系姫浦層群の地質年代

P30 對比地孝亘・三宅優佳・小松俊文・真鍋真・ルグラン ジュリアン　鹿児島県上甑島に分布する姫浦層群から発見された恐竜化石

P31 佐野晋一　手取層群の脊椎動物相はどのぐらい多様なのか

P32 小平将大・林昭次・Chinzorig Tsogtbaatar・Koen Stein・Khishigjav Tsogtbaatar　骨髄骨を用いたオルニトミモサウルス類の性成熟期の検討

P33 今井拓哉・東洋一・湯川弘一・高橋文雄・山根謙二・篠田健二・清水好晴　山口県下関市の関門層群下関亜層群（前期白亜紀後期）から産出した国内初のデンドロウーリトゥス卵科の卵殻化石
P34 浦野雪峰・杉本泰伸・田上響・松本涼子・河部壮一郎・大橋智之・藤原慎一　トリのクチバシ角質部の層構造から予想するクチバシの成長様式
P35 安藤佑介・楓達也・木村敏之・高桑祐司・野村真一・宮田真也・齊藤毅　瑞浪北中学校敷地造成工事現場（岐阜県瑞浪市）の下部中新統瑞浪層群明世層から産出した化石
P36 江木直子　哺乳類の距骨 cotylar fossa の足根関節での機能の検討と系統分類形質としての意義
P37 鍔本武久　踵骨による陸棲哺乳類の体重推定
P38 樽創　*Paleoparadoxia tabatai* (Tokunaga, 1939)の咀嚼運動の推定
P39 半田直人　日本の新第三紀中新世サイ科(哺乳綱, 奇蹄目)化石：現状と課題
P40 辻川寛・Martin Pickford・國松豊・中野良彦・中務眞人・菊池泰弘・石田英實　中期中新世ケニア北部ナチョラ地域の巨大イノシシ類
P41 西岡佑一郎・高井正成・鍔本武久・江木直子・タウンタイ・ジンマウンマウンテイン　新第三紀ミャンマーにおけるウシ科群集の隔離過程
P42 田中嘉寛・樽野博幸　大阪層群（中期更新統）より初めて産出したクジラ化石
P43 加藤敬史　漸新統佐世保層群から発見されたキヌゲネズミ科およびトビネズミ科（齧歯目）化石について
P44 安井謙介・木谷良平・一田昌宏　豊橋市自然史博物館及び豊橋総合動植物公園所蔵の現生哺乳類及び鳥類の骨格標本について
P45 田尻理恵・江﨑洋一　樹脂包埋薄片作成における脱水方法の比較

高校生ポスターセッション

HP1 原悠介　栃木県葛生地域に分布する苦灰岩の特徴について
HP2 上田航平・樋本和仁・宮﨑紫清　約 40 万年前の古東京湾の単体サンゴに関する新発見
HP3 長谷川仁衣那・藤堂博仁・出雲由夏・高橋愛佳・松野綾・吉岡美咲・高橋明日香・荒井晴香・馬淵璃裕奈・吉岡文菜・伊藤克真・清水颯将　脊椎動物の糞形態と体サイズの関係：ウマ類を対象とした事例研究

【14:30–14:45】休 憩

【14:45–16:00】一般講演 口頭発表 2（A–C 会場）

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎動物の部（1） **座長:藤原慎一**	**古環境の部（2）** **座長:足立奈津子**	**古生物地理の部** **座長:板木拓也**
A05 w 鈴木花・小林快次・加納学・唐沢與希・林昭次・太田晶・宮地鼓　北海道芦別市上部白亜系蝦夷層群羽幌川層から産出した獣脚類化石	B05 w 長谷川卓・外山浩太郎・L.K. O'Connor・B.T. Huber・R.W. Hobbs・K.A. Bogus・IODP Exp. 369 乗船研究者　南テチス海高緯度域における白亜紀セノマニアン/チューロニアン境界の OAE2 : 国際深海科学掘削計画(IODP)第369次航海の予察成果	C05 w Christopher P. Stocker・Mark Williams・Philip D. Lane・Derek J. Siveter・Tatsuo Oji・Simon Wallis・Gengo Tanaka・Toshifumi Komatsu Palaeobiogeographical significance of the Silurian and Devonian trilobites of Japan

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎動物の部 (1) 座長:藤原慎一	古環境の部 (2) 座長:足立奈津子	古生物地理の部 座長:板木拓也
A06 w 石垣忍・Mainbayar, B.・Tsogtbaatar, Kh・西村龍太郎・蔦永早也香・林昭次・實吉玄貴　モンゴル国南ゴビ県 Khavirgiin Dzo の上部白亜系から産出した大型竜脚類の行跡	B06 w 加藤禎理・長谷川卓・後藤晶子・James Crampton　白亜紀セノマニアン/チューロニアン期境界の南太平洋高緯度域における環境変動	C06 m 相田吉昭・山北聡・武藤俊・Hamish Campbell　ニュージーランド北島 Kapiti 島から産出する後期三畳紀放散虫 – 高緯度型固有種は存在するのか？
A07 w 中島重大・小林快次・高崎竜司・田中公教・Tsogtobaatar Chinzorig・Khishigjav Tsogtbaatar・Anthony R. Fiorillo　モンゴル・ゴビ砂漠ネメグト産地の恐竜足跡化石: 古生態学・古環境学的意義	B07 m 吉川亞理紗・長谷川卓・後藤晶子・岩瀬優也・守屋和佳・Jim Haggart　カナダ太平洋沿岸に分布する上部カンパニアン-マーストリヒチアン階に関する有機地球化学的特徴	C07 w Sano, S.・Iba, Y.・Tin Tin Latt・Kubota, A.・Saw Mu Tha Lay Paw・Thura Oo　First record of rudist bivalves from Cretaceous limestone in the northern part of Myanmar (a preliminary report)
A08 m Tsogtbaatar, Kh・渡部真人　空中写真の恐竜化石産地についての研究への利用例：モンゴル、ゴビ砂漠西部ネメグト層化石産地の地質	B08 w 天野和孝・ジェンキンズ・ロバート・栗田裕司　北海道東部浦幌町の暁新世沈木群集中の中生代遺存種と最古の化石記録	C08 w 嶋田智恵子・Robert G. Jenkins・齋藤めぐみ・山﨑誠・田中裕一郎・疋田吉識　北海道中央部三笠市に分布する中部蝦夷層群三笠層より産出した日本最古の珪藻化石群集
A09 m 渡部真人・Tsogtbaatar, Kh　モンゴル、ゴビ砂漠西部恐竜化石産地 Khermeen Tsav（ネメグト層）の堆積相と動物相との関係：空中写真を利用した分析	B09 w Kazutaka Amano・Crispin T.S. Little・Kathleen A. Campbell　Lucinid bivalve fossils from Miocene hydrocarbon-seep sites in the Hawke Bay area of North Island, New Zealand	C09 m 安原盛明・岩谷北斗・Gene Hunt・岡橋久世・加瀬友喜・林広樹・入月俊明・Yolanda M. Aguilar・Allan Gil S. Fernando・Willem Renema　西太平洋域における新生代浅海生物多様性変動

【16:00–16:15】休 憩

【16:15–17:15】一般講演 口頭発表 3（A–C 会場）

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎動物の部 (2) 座長:宮田和周	古環境の部 (3) 座長:渡部真人	生層序の部 (1) 座長:伊藤剛
A10 w 髙橋亮雄・エリック セティヤブディ・イワン クルニアワン・ウングル P. ウィボウォ・イヴァン Y. P. スハルヨギ・ガート D. ヴァンデンベルグ　ジャワ島中部の下部更新統より発見された淡水生および陸生カメ類の化石について	B10 w 安藤寿男・長谷川精・長谷部徳子・N. Ichinnorov・太田亨・長谷川卓・山本正伸・李罡・B-O. Erdenetsogt・U. Heimhofer　モンゴル南東部の中上部ジュラ系－下部白亜系湖成層の堆積年代と堆積環境	C10 w 稲田稔貴・小松俊文・浦川良太・前川匠・高嶋礼詩・グエン ダック フォン・ザン ディン フン　ベトナム北部シーファイ峠に分布する上部デボン系のコノドント生層序

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎動物の部（2） 座長:宮田和周	古環境の部（3） 座長:渡部真人	生層序の部（1） 座長：伊藤剛
A11 m 木村由莉・松井久美子・長田充弘・猪瀬弘瑛・池田一也・Brian L. Beatty・大林秀行・平田岳史・大藤茂・新村達也・上松佐知子・指田勝男　眠れる『恐竜』化石その１：筑波大学から半世紀以上ぶりに再発見されたパレパラドキシア	B11 m ルグラン ジュリアン・小松俊文・三宅優佳・對比地孝亘・真鍋真　甑島列島及び天草諸島に分布する上部白亜系姫浦層群の古植生と古環境	C11 w 指田勝男・Sirot Salyapongse　タイ国西部 Nong Prue 地域に分布するチャート角礫岩から産するペルム紀および三畳紀放散虫とその産出意義
A12 m 松井久美子・木村由莉・長田充弘・猪瀬弘瑛・池田一也・Brian L. Beatty・大林秀行・平田岳史・大藤茂・新村達也・上松佐知子・指田勝男　眠れる『恐竜』化石その 2:筑波大学から半世紀以上ぶりに再発見されたパレパラドキシア	B12 m Kunio Kaiho・Naga Oshima　Cause of cooling-drought events triggered by asteroid-comet impacts	C12 w 前川匠・James F. Jenks・重田康成　ネバダ州 Crittenden Springs の含アンモノイド石灰岩から産出したスミシアン亜期（前期オレネキアン期）のコノドント化石
A13 w 北川博道 *Paleoparadoxia tabatai* はどこまで大きくなったか	B13 w 吉川武憲・森繁・香西武　中期中新統“雨滝湖成層”から産出する植物化石群	C13 w 松岡篤　ジュラ・白亜系境界と放散虫の進化系統

【17:15–17:30】休 憩

【17:30–17:45】ポスター賞表彰式（ポスター会場１付近）

【17:45–19:45】夜間小集会

A. 大量絶滅直後の Lagerstätte：稲井層群大沢層の化石研究と保護（地球科学研究棟 5 階 503 号室）

世話人：中島保寿（東京都市大学）

趣　旨：宮城県の南部北上帯に分布する稲井層群大沢層（下部三畳系Olenekian）は，保存良好な脊椎動物・無脊椎動物化石を産するLagerstätte（化石鉱脈）として，また、ペルム紀–三畳紀境界の大量絶滅直後の生物相に関する類稀な記録として，国内でも有数の重要化石帯である．この夜間小集会では，近年飛躍的に得られている，大沢層の古生物および堆積環境に関する研究成果を持ち寄り，ライトニングトーク形式で紹介し，最後に将来研究の展望について議論したい．また，希少な化石資料の保護に向けて，学会員で議論を深め，意識を共有することを目指す．

話題提供：

高橋聡（東京大学）・吉澤和子（JOGMEC）・武藤俊（東京大学）・永広昌之（東北大学）

「大沢層の記録する前期三畳紀南部北上古陸周辺の海洋環境」

佐々木理（東北大学）・中島保寿（東京都市大学）
「マイクロ CT でみた大沢層中のパイライト保存」
永広昌之（東北大学）　「大沢層のアンモノイドと嚢頭類」
加藤久佳（千葉県立中央博物館）・永広昌之（東北大学）・鹿納晴尚（東北大学）
「大沢層の十脚甲殻類化石」
吉澤和子（JOGMEC）・對比地孝亘（東京大学）・真鍋真（国立科学博物館）
「*Utatsusaurus* の頭蓋骨化石の CT 解析」
中島保寿（東京都市大学）・鹿納晴尚（東北大学）・佐々木理（東北大学）
「大沢層の新たな脊椎動物化石群集」

B. みんなで「手取層群」の定義と層序の大区分を考える（地球科学研究棟 5 階 513 号室）

世話人：山田敏弘（大阪市立大学）・佐野晋一（富山大学）
趣　旨：「手取層群」は北信越地方に分布するジュラ～白亜紀の堆積物で，東アジアを代表する古生物学研究のホットスポットである．従来，北信越地方に点在する堆積盆を一括して手取層群とし，それを九頭竜，石徹白，赤岩の３亜層群に区分するのが一般的だった．しかし，近年の生層序学的見直しの結果，九頭竜亜層群と石徹白亜層群の間に，約 500 万年の時間間隙があることが分かった．また，神通区の堆積物を個別の層群として独立させる提案がなされた．このように，これまで通用していた「手取層群」の定義が揺らぎ始めている．この夜間小集会では，１）使いやすい「手取層群」の定義は何か，２）亜層群ランクでの区分は必要か，について，研究史，構造発達史，および古生物相の変遷などの観点から議論する．私たちは，これらの２点について，研究者間の合意形成を目指しており，この夜間小集会では，話題提供者からの提案のほか，参加者からの自由な提案を歓迎する．
話題提供：山田敏弘（大阪市立大学）・佐野晋一（富山大学）・大藤茂（富山大学）

6 月 24 日（日）東北大学　青葉山北キャンパス

【9:15–10:30】一般講演 口頭発表 4（A–C 会場）

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎動物の部（3） 座長：江木直子	古環境の部（4） 座長：斎藤めぐみ	生層序の部（2） 座長：上栗伸一
A14ｗ 川谷文子・甲能直樹　佐渡島の下部～中部中新統より産出した束柱類が示唆する巨大化	B14ｍ 矢部淳・植村和彦・鄭恩境・金京植　東アジア固有針葉樹類の地理的隔離はなぜ成立したか？	C14ｗ 西弘嗣・Babu Ram Gyawali・高嶋礼詩　フランス Vocontian Basin の上部白亜系統合層序

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎動物の部 (3) 座長:江木直子	古環境の部 (4) 座長:斎藤めぐみ	生層序の部 (2) 座長:上栗伸一
A15 w 宮田和周　鹿児島県上甑島層群中甑層の前期始新世ブロントテリウム科（奇蹄類）化石	B15 m 松崎賢史・板木拓也・多田隆治・上栗伸一・黒川俊介 放散虫群集に基づいた後期中新世における日本海の古海洋環境 (IODP Exp. 346 Site U1425 & U1430)	C15 w 大関仁智・清水紀和・上松佐知子・指田勝男　山中層群石堂層及び秩父盆地新第三系白沙層のチャート礫・珪質泥岩礫より産する微化石
A16 w 村上達郎・髙津翔平・鍔本武久　岐阜県の中新統瑞浪層群から産出した“サイ科”の上腕骨化石の再検討	B16 m 岩井雅夫　第四紀後期アラビアモンスーン残像-IODP Exp.355 の珪藻化石から-	C16 m 本山功・上栗伸一　日本における過去 20 年間の新第三系放散虫層序学の進展
A17 m 渡部真人　ヒッパリオン類の分類に用いられた頭骨および四肢骨における形質の対応関係と生態的な意味（哺乳類ウマ科）	B17 m 山田桂・小原一馬・池原実・瀬戸浩二　過去 3000 年間の東アジア夏季モンスーン強度と太陽活動との関連	C17 w 林圭一・廣瀬亘・川上源太郎　北海道北東部に分布する中新統の層序学的整理と渦鞭毛藻シスト化石層序による対比の試み
A18 m 木村由莉・冨田幸光・Daniela C. Kalthoff・Isaac Casanovas-Vilar・Thomas Mörs 岐阜県可児市から見つかったエオミス科の新属新種とアジアにおけるエオミス科齧歯類の多様性	B18 m 小玉智之・高柳栄子・浅海竜司・阿部理・井龍康文 ヒレジャコの殻の酸素同位体組成を用いた海水温復元の信頼性および問題点	C18 m 千代延俊・山﨑誠・松田博貴・鳥井真之・佐々木圭一 鹿児島県喜界島の上部新生界石灰質微化石層序

【10:30-10:45】休　憩

【10:45-12:00】一般講演 口頭発表 5（A-C会場）

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎動物･タフォノミーの部 座長:田中嘉寛	古環境の部 (5) 座長:山田桂	形態解析･分類の部 座長:田中源吾
A19 w 木村敏之・長谷川善和 群馬県の安中層群よりケントリオドン類化石の産出	B19 m 西尾拓哉・高柳栄子・浅海竜司・新城竜一・山本鋼志・井龍康文　現生腕足動物殻の微量金属元素濃度に関する基礎的研究	C19 w 生形貴男　オウムガイ類の殻形態の多様性は比表面積に制約される
A20 m 蔡政修　広島の中新世からのヤマオカクジラの古繁殖地	B20 m 高柳栄子・西尾拓哉・藤岡大・山本和幸・井龍康文　現生腕足動物殻の成長速度と年齢の推定方法	C20？ 椎野勇太・土田貴史 ジグザグを持つ腕足動物 *Vinlandostrophia ponderosa* の適応戦略

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎動物・タフォノミーの部 座長:田中嘉寛	古環境の部 (5) 座長:山田桂	形態解析・分類の部 座長:田中源吾
A21 m 長澤一雄・渡部晟・澤木博之・渡部均　秋田県男鹿半島鵜ノ崎海岸の中新統コンクリーションより多数の鯨類化石を発見	B21 w 藤田和彦・下地勝大・小谷野将　那覇新港地下における完新統サンゴ礁堆積物中の礁性微生物被殻の深度分布	C21 m 山田晋之介　ウミホタル上目貝形虫の背甲超微細構造
A22 w 大山望・前田晴良　上部三畳系美祢層群の昆虫化石分類とその保存度について	B22 ? 野村律夫　宍道湖における堆積速度と有機物の分解速度について	C22 w 徳田悠希・石黒泰弘・江﨑洋一・千徳明日香 *Truncatoflabellum gardineri* 骨格に認められる破損・修復痕を用いた沖合軟底質上でのイシサンゴの捕食圧の解明
A23 m 平山廉・宮園誠司・不動寺康弘・河野重範　佐賀県唐津市の新第三系野島層群より発見されたイシガメ科（カメ目・潜頚類）について	B23 w 北村晃寿　御前崎の隆起貝層の再発見	C23 w 高橋宏和　東北大学に所蔵されている中新統産ウミニナ科貝類化石

【13:30-15:00】普及講演会

「大量絶滅はなぜ起きるのか　―恐竜は今も生きていたかも知れない！―」

・講師：海保邦夫（東北大学大学院理学研究科教授）

・会場：東北大学　理学研究科大講義室（H-32）

（最寄駅：地下鉄東西線・青葉山駅「北１出口」）

・定員：400名（申し込み不要）（13:00開場予定）

6月24日（日）

【9:45-14:30】化石友の会イベント 仙台市泉区焼河原の竜の口層・向山層の観察と化石採集

・日時：2018 年 6 月 24 日（日曜日）9:45～14:30（予定）

・巡検地：宮城県仙台市泉区焼河原

・講師：永広昌之名誉教授（東北大学総合学術博物館）

・集合場所：東北大学理学部自然史標本館(地下鉄東西線青葉山駅「北１出口」から徒歩 3 分).

・集合時間：9:45

・巡検内容：竜の口層・向山層の観察と化石採集（雨天の場合：レクチャー「竜の口の海の生き物たち（仮題）」および自然史標本館の見学を午前中に行います．）

・定員：20 名（先着順）
・参加申し込みの締め切り日：2018 年 5 月 20 日．参加決定者には別途詳細を連絡します（参加決定のお知らせは 5 月 25 日を目処にお送りいたします）．
・申し込み方法：学会ホームページ，もしくは下記 URL から参加申し込みフォームにご入力お願いします.
・参加費：200 円（保険代として）
・野外活動に適した服装（長ズボン，長袖，靴は長靴推奨）をし，昼食，軍手，雨具をご持参ください．ハンマーとタガネは必要であれば貸出し可能です.
・ご質問などがございましたら friends@palaeo-soc-japan.sakura.ne.jp にお問い合わせください.
・申し込み参加フォームの URL：
https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeKsWVo7JKFGXffr9vRe_c01WKQGxSD9LPU6ClEewfg5Hz7kQ/viewform
・スマホなどは下記 QR コードからでも登録できます.

＊＊＊＊＊３．発表方法及び機器についての注意事項など ＊＊＊＊＊

＜口頭発表をされる方へ＞

【重要！】口頭発表はパソコン等持参です！貸出はありません.

・接続端子は，HDMIかmini D-Sub15ピンの２種類のみです．それ以外の端子の場合はご自身で変換アダプターをお持ち下さい.
・休憩時間などに接続状況を確認して下さい．接続作業時間も講演時間に含みます.
・プロジェクター画面は原則として４：３画角となります.
・デュアル・ディスプレイ設定のノートパソコン（普段，外部モニターと併用しているノートパソコン）は，接続前にシングルモニターに切り替えて下さい.
・パソコン等の操作や接続は，発表者ご自身でお願いします.
・一般講演の口頭発表時間は15分です（質疑応答，使用機器の接続時間含む）.

＜ポスター発表をされる方へ＞

・ポスターのサイズはA0（横841 ㎜×縦1189 ㎜）が基準です．一発表につき，指定された１面のみをご利用下さい. 貼り付け場所は主に合同A棟（２階ホール）もしくは合同C棟（２階ロビー）ですが，貼り付け指定場所は当日にご確認ください.
・ポスターは6月23日（土）の9：00から貼ることができます．また，24日（日）の12：30までに各自撤収して下さい．詳しくは会場受付または会場係員までお尋ね下さい.
・ポスター掲示用の画鋲は会場で用意します.

会場及び発表方法・機器に関する問い合わせ先

開催実行委員：井龍康文（yasufumi.iryu.d8●tohoku.ac.jp）Tel: 022-795-6622
鈴木紀毅（sendai_taikai●mbe.nifty.com）Tel:022-795-6623
＊「●」を「@」に置き換えたうえ，必ず両名へメール願います.
＊メール題目「古生物学会2018東北大・問い合わせ」

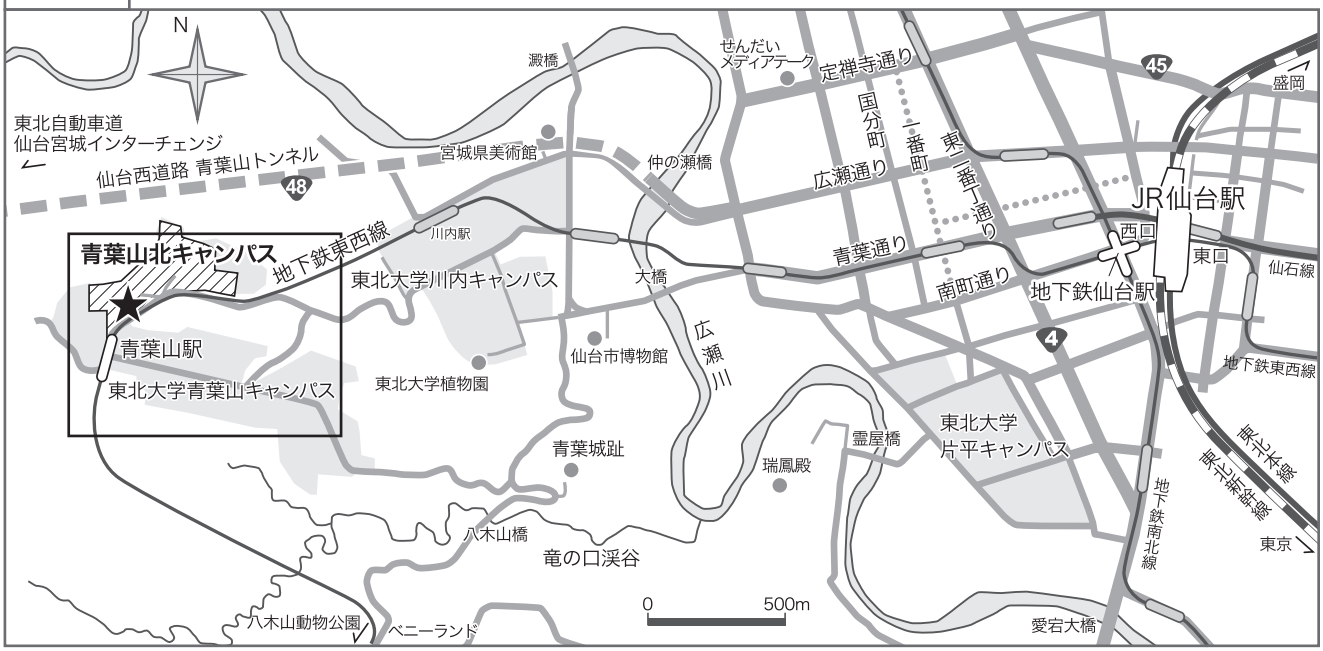
行事係：遠藤一佳（東京大学）E-mail：endo@eps.s.u-tokyo.ac.jp

その他

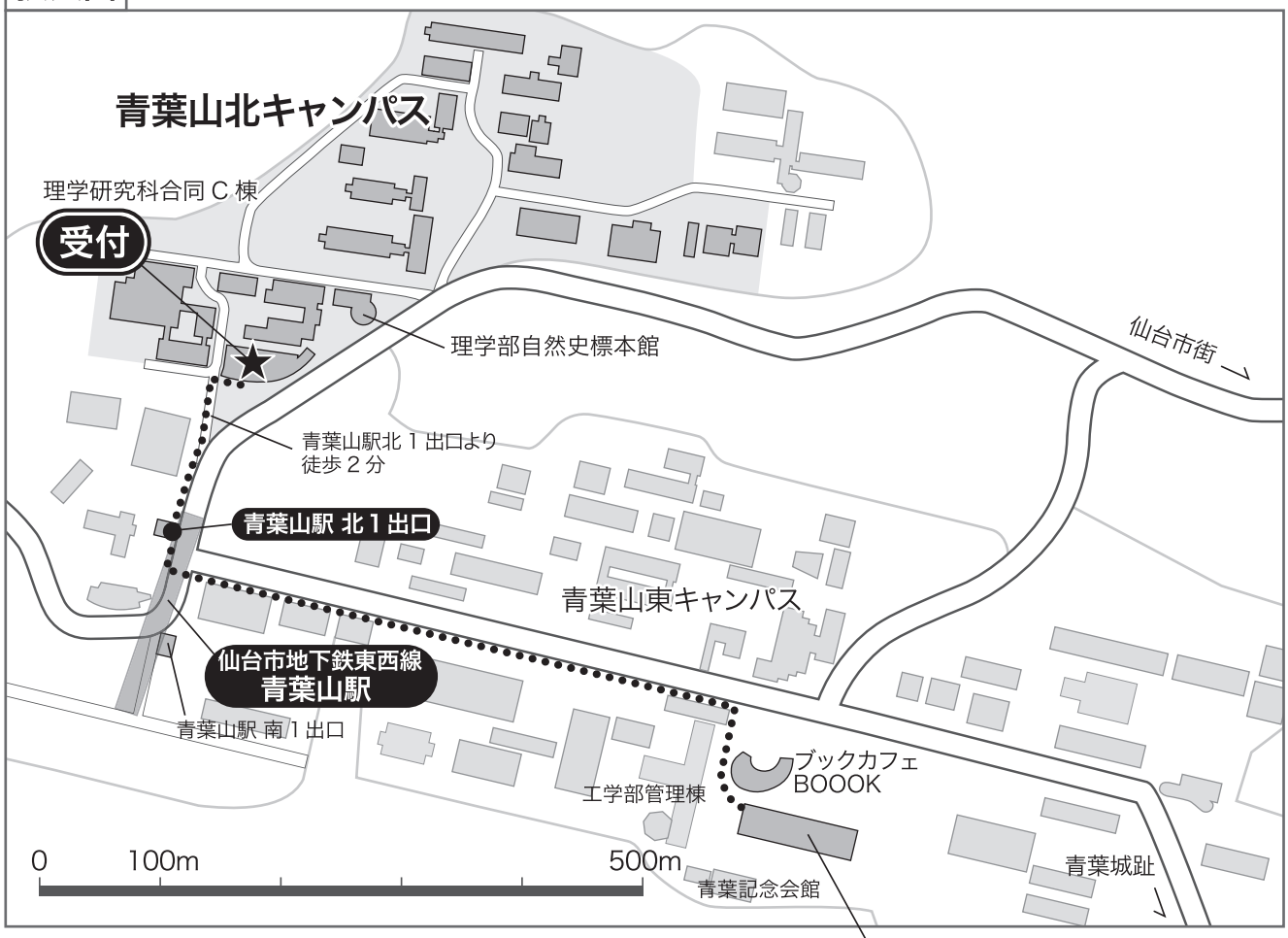
- **ご来場について**：公共交通機関をご利用下さい．懇親会を除き，地下鉄東西線・青葉山駅の北１出口（改札を出て左に曲がる）が最寄りとなります．その出口から会場まで徒歩２分.
- **IC 乗車券**：仙台市営バス・地下鉄とも Suica と icsca のみ利用できます.
- **標本展示等希望者**：井龍康文（yasufumi.iryu.d8●tohoku.ac.jp）と鈴木紀毅（sendai_taikai●mbe.nifty.com）へ 5 月 20 日（日）までにメールにてご相談下さい（●を@に置き換えて送信願います）．詳細をお知らせします．メール題目は「古生物学会 2018 年東北大・出展」でお願いします．希望数によってはお断りすることもございます．予めご容赦ください.
- **６月２２日（金）について**：合同 C 棟のみ出入り可能です．22 日は談話室（１）・談話室（２）（合同 A 棟 204・303 号室）は入室できません．また，授業期間なので廊下等では静粛にお願いします.
- **懇親会について**：本プログラム iii ページ参照.
- **お食事**：会場 A, B, C のいずれも飲食可能です.
  6 月 22 日（金）：キャンパス内で可能ですが，授業期間なのでお昼前後は相当の混雑が予想されます.
  6 月 23 日（土）：キャンパス内の大学生協の食堂（11:00～13:30）と購買部.
  6 月 22 日（金）～24 日（日）：欠品になる恐れがあります.
  　＊会場 A 横のセブンイレブン東北大学理学部店（8:00～22:00）.
- **喫煙**：東北大学の敷地内は建物の内外を問わず，全面禁煙となっています.
- **託児所**：市内には託児施設がありますので，各自お調べください.
- **盗難対策**：本学会を含め，学会開催中の盗難が報告されています．貴重品は各自の責任で管理をお願いいたします.
- **写真およびビデオ撮影について**：発表者の許可なく講演およびポスター発表を撮影することを禁止します.
- **理学部自然史標本館（東北大学総合学術博物館）の見学**：古生物学会の開催期間中，学会参加者に限り，無料で観覧できます．受付にて受付簿に記帳，ならびに学会の黄色い名札をご提示ください．開館時間は 10:00～16:00 です.

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊ 4. 会場案内 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

全体図



拡大図



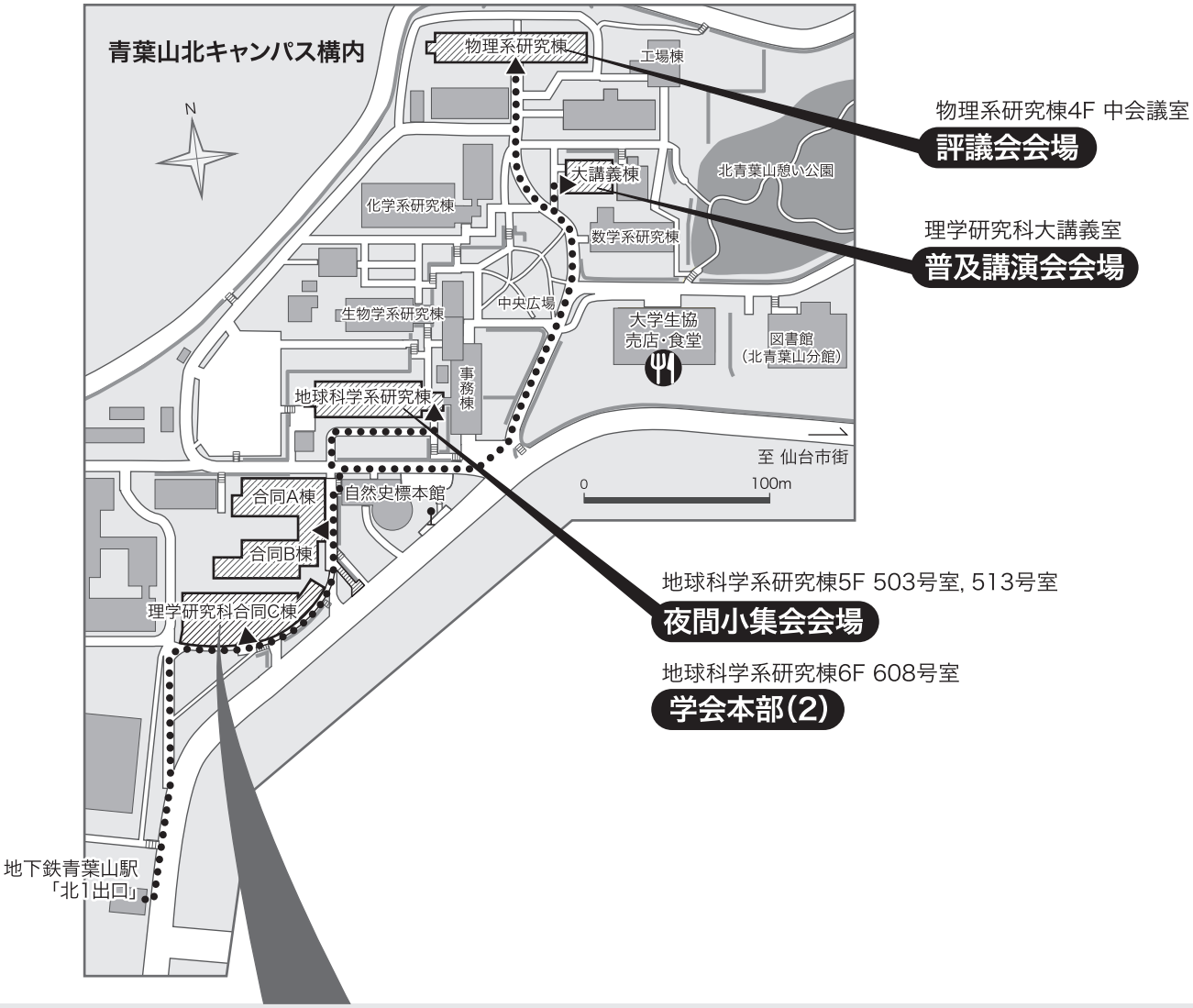
■ 学会会場への交通

《地下鉄》
仙台市地下鉄東西線「仙台駅（T07）」より「八木山動物公園行き」に乗り、
「青葉山駅（T02）」で下車（乗車時間 9 分、料金 250 円）。
青葉山駅「北 1 出口」より徒歩 2 分。

《タクシー》
JR 仙台駅西口タクシー乗り場より乗車、所要時間約 15 分、料金約 2,000 円。

懇親会会場

工学研究科中央棟　あおば食堂 DOCK
青葉山駅北 1 出口 および南 1 出口より 徒歩約 10 分


青葉山北キャンパス構内
N
物理系研究棟
工場棟
大講義棟
北青葉山憩い公園
化学系研究棟
数学系研究棟
中央広場
生物学系研究棟
大学生協
売店・食堂
図書館
(北青葉山分館)
事務棟
地球科学系研究棟
至 仙台市街
0
100m
合同A棟
自然史標本館
合同B棟
理学研究科合同C棟
地下鉄青葉山駅
「北1出口」
物理系研究棟4F 中会議室
評議会会場
理学研究科大講義室
普及講演会会場
地球科学系研究棟5F 503号室, 513号室
夜間小集会会場
地球科学系研究棟6F 608号室
学会本部(2)

談話室(2) ※23日・24日のみ
303
EV
WC
3階
吹抜
EV
WC
合同A棟
B会場
学会本部(1)
203
EV
204
205
WC
談話室(1)
※23日・24日のみ
C会場
2階
ポスター会場(2)
2階ホール
デッキ
出入口
合同B棟
EV
WC
標本展示
多目的室
WC
WC
食堂
A会場
アオバ
サイエンスホール
EV
EV
2階ロビー
出入口
理学研究科合同C棟 2階
コンビニエンス
ストア
受付
出入口
ポスター会場(1)
地下鉄青葉山駅
「北1出口」